

6月27日(水)周防大島町立城山小学校で、山口大学の三浦教授による防災教育講座開催

城山小学校の3年以上の児童40名と地域の方32名が参加して、山口大学大学院理工学研究科の三浦房紀教授による防災教育講座が、城山小学校体育館で開催されました。

当日のテーマは、

- 1 東日本大震災とこれから起こる災害について
  - 2 どのような準備をすればよいか考えよう
- の2点でした。

## 1 東日本大震災とこれから起こる災害について

### ○ 断層ごっこをしてみよう

児童が向かいあって手をつなぎ、同時に一歩右に移動します。さらにもう一歩、もう一歩と続け、三、四歩進むとがまんできなくなると手が離れてしまいます。「これが地震が起きたときの状況です」と三浦先生。



断層がずれて破壊される状況を自分の体で感じたことで、地震のメカニズムを理解することができました。

### ○ 大島では過去、どのような地震の災害があった？

- ・ 安政南海地震 (1854年)

現5年生が昨年、安政南海地震で大島に襲来した津波被害の言い伝えを調査しました。海から20mの高さにある祠まで津波がきたなどの言い伝えがあったことを児童が発表しました。

- ・ 平成芸予地震 (2001年)

### ○ これから日本、山口県で起こる地震

- ・ 過去にも、東日本で起きた大地震の十数年後に西日本でも大地震が発生している。

しかし、「正しく学んできちんと準備していれば大丈夫」です。

- ・ 安芸灘・伊予灘を震源とする地震  
→ 大島では震度5強～6弱の想定
- ・ 南海地震  
→ 津波が大島に着くのは90分後の想定

## 2 どのような準備をすればよいか考えよう

### ○ 地震でけがをする原因は？

- ・ 落ちてくるもの、倒れてくるものの下敷きになる。
- ・ 火事でやけどをする。
- ・ 津波に流される。など



### ○ けがをしないようにするには？

- ・ 学校にいるとき  
→ 机の下にもぐる。そのとき、頭を守るとともに、机の下からまわりの様子を見る。  
→ 先生の指示に従う。先生がいなかったら避難場所に逃げる。
- ・ 登下校中や家にいるとき  
→ 「落ちてくるもの、倒れてくるもの」がないところに逃げる。

### ○ どのような危険があるか調べておこう

- ・ ハザードマップの活用
- ・ 自分たちで防災マップをつくってみよう

### ○ 家族と離ればなれのときに地震が起こることを考えておく

- ・ 落ち合う（避難する）場所を決めておく。  
→ 自分は絶対助かるという気持ちと、家族も絶対避難しているという思いで避難する。

### 今日、家に帰ったら家族で話し合おう

- ◇ 離ればなれになったら、連絡をどのようにとるか。どこに集まるかを決めよう。
- ◇ 夜寝ているときに地震があっても大丈夫なように、寝ている部屋を整理しよう。
- ◇ 倒れてくるもの、飛んでくるものがないように、家具などを固定しよう。

### 講座修了後、三浦先生を囲んで職員研修会を実施

Q：大きな地震が起きたとき、1・2年生がパニックにならないか心配。どうすればよいか。

A：先生が大きな声で「大丈夫」「心配しないで」等の声をかけて落ち着かせる。

